



知的障害

知的障害とは、知的機能の障害が発達期（おおむね18歳未満）にあらわれ、日常生活の中でさまざまな不自由が生じることをいいます。例えば、複雑な事柄やこみいった文章・会話の理解が不得手であったり、おつりのやりとりのような日常生活の中での計算が苦手だったりすることがあります。

また、障害のあらわれ方は個人差が大きく、少し話をしただけでは障害があることを感じさせない方もいます。しかし、自分のおかれている状況や抽象的な表現を理解することが苦手であったり、未経験の出来事や状況の急な変化への対応が困難であったりする方は多く、支援の仕方も一人ひとり異なります。

精神障害

精神障害とは、精神疾患のため精神機能の障害が生じ、日常生活や社会参加に困難をきたしている状態のことをいいます。病状が深刻になると、判断能力や行動のコントロールが著しく低下することがあります。正しい知識が十分に普及していないこともあり、精神疾患というだけで誤解や偏見、差別の対象となりやすく、社会参加が妨げられがちです。

発達障害

発達障害は、広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群など）・学習障害（LD）・注意欠陥多動性障害（AD/HD）など、脳機能の発達に関係する障害で、家庭環境や親の育て方が原因となるものではありません。発達障害のある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどが苦手で、その言動が誤解されてしまうこともあります。障害の種類や程度、年齢や性格などにより個人差があり、望ましい対応方法も個別的・具体的にかなり違ったものとなりますが、子供のうちの「気づき」や「適切なサポート」、障害に対する私たち一人ひとりの「理解」が大切です。

高次脳機能障害

高次脳機能障害とは、脳卒中などの病気や交通事故などで脳の一部を損傷したために、思考・記憶・行為・言語・注意などの脳機能の一部に障害が起きた状態をいいます。外見からは分かりにくい障害であるために、周りの人から十分に理解を得ることが難しく誤解されてしまうことがあります。

上記以外にも「障害」には様々な範囲があり、平成23年の障害者基本法の改正において「障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」とされ、難病なども幅広く障害者と定義しています。

ちよこっとコラム

② ほじょ犬マークとは？【身体障害者補助犬法の啓発のためのマークです。】

身体障害者補助犬とは、盲導犬、介助犬、聴導犬のことをいいます。「身体障害者補助犬法」において、公共の施設や交通機関はもちろん、デパートやスーパー、ホテル、レストランなどの民間施設は、身体障害のある人が身体障害者補助犬を同伴するのを受け入れる義務があります。補助犬を同伴することのみをもってサービスの提供を拒むことは障害者差別に当たります。補助犬はペットではありません。社会のマナーもきちんと訓練されているし、衛生面でもきちんと管理されています。



心のバリアフリー基礎知識②



「障害は社会の中にこそある」 一障害の「医学モデル」と「社会モデル」という考え方

障害とは、旧来は障害の「**医学モデル**」という考え方が主流でした。障害や不利益・困難の原因は目が見えない、足が動かせないなどの個人の心身機能が原因であるという考え方のことです。階段を登れないのは立って歩くことができないから、車いすを利用しているからで、その障害を解消するためには、立って歩けるようになるためのリハビリなどによる個人の努力や訓練、医療・福祉の領域の問題と捉える考え方です。

これに対して、障害の「**社会モデル**」というのは、障害や不利益・困難の原因は障害のない人を前提に作られた社会の作りや仕組みに原因があるという考え方のことです。

社会や組織の仕組み、文化や慣習などの「社会的障壁」が障害者など少数派の存在を考慮せず、多数派の都合で作られているために少数派が不利益を被っている、という考えで、社会が障害を作り出しているからそれを解消するのは社会の責務と捉えます。

障害者差別解消法や障害者差別解消条例もこの障害の「社会モデル」を基本としており、このようにして障害を捉えることにより、社会に対し、障害者に対する差別的取扱の禁止や合理的配慮が求められることとなります。



「しめだす円」と「含め入れる円」から考える障害の社会モデル

（府中市では、令和2年11月1日に本協働事業として以下の映画上映会を実施しました。）

障害者の自立を描いたドキュメンタリー映画「インディペンデントリビング」の冒頭ではアメリカの詩人エドウィン・マーカムの「大きな円」という印象的な詩が紹介されます。



その人は円を描いた
私を「しめだす」ために
異端者や反乱者、軽蔑すべきものをしめだすために
しかし、愛と私はこれにうちかつ知恵を持っていた
私達も円を描いた
その人をも「含め入れる円」を

私たちはこの詩のように、実は知らず知らずのうちに自分の周りに「しめだす円」を描いて自分とは異なるものを遠ざけたり排除したりする考えを持ってしまいがちです。これを「含め入れる円」にすることで、障害の有無に関わらず多様性を受け入れる、多様性に寄り添う事ができれば、日々の暮らしの中でより良い社会モデルを作ることができるでしょう。